

戦略的創造研究推進事業  
(社会技術研究開発)  
平成28年度実装活動報告書

研究開発成果実装支援プログラム  
「発達障害者の特性別評価法 (MSPA) の医療・教育・社会  
現場への普及と活用」

採択年度 平成26年度

実装責任者氏名 船曳 康子 (京都大学 大学院  
人間・環境学研究科、准教授)

## 1. 要約

4月より、MSPAは医療保険に収載され、利用者、講習会希望者、研修会のニーズの増加は著しく、2の通りの研修会を行った。

マニュアルに関しては、平成27年度に作成した年齢層別評価支援マニュアルを用いながら、更なるブラッシュアップを行った。詳細な評定用紙に年齢層別の留意点を加え、MSPA専用の質問紙も作成した。質問紙は、事前に情報を系統立ててもらえず、複数の関係者から集めるために工夫した。これらのマニュアル、評定用紙、質問紙は、7月末には完成し、配布を開始した。またこれらの英語版も作成し、国際化に耐えうる形とした。

講習会プログラムについては、平成27年度の草案をもとに、平成28年度前半で、チーム全体で講習会プログラムの内容について検討した上で、ロールプレイのビデオ撮影を行い、試作プログラムを完成させた。さらに、その試作プログラムを用いた講習会を開催した。講習会参加者の意見やサポート結果をもとに、講習プログラムの見直しを行い、講習会プログラムもまた完成させた。28年度には、2日間の講習会を3回行い、計200名の研修修了者を輩出し、それぞれに修了書を発行した。

そして、MSPAも含め、地域（家庭・園・学校・職場）から教育センター・支援センター・医療機関にわたる発達障害の支援・診療の流れについて、種々の現場での実地、意見交換を繰り返し、引き続き、支援モデルを構築した。

更には、感覚受容や巧緻性の項目に対して、光脳機能イメージング装置を用いた脳機能測定の実験を開始した。

## 2. 実装活動の具体的内容

### 【会議・事例検討会】

以下のように全体およびグループ毎の会議を開き、話し合いながら進めていった。

- ・平成28年度第一回MSPA講習会に向けた打ち合わせ

日時：平成28年5月6日(金) 13時～16時

場所：吉田南総合館南棟二階215

内容：MSPAの普及のために行う第一回目のMSPA講習会に先立ち、MSPAの手引きや記録用紙等の配布物や、MSPA講習会の構成の確認等を行った。

- ・平成28年度第一回関係者全体会議

日時：平成28年5月20日(金) 17時～20時

場所：吉田南総合館南棟二階216

内容：MSPAの普及のために行う第一回目のMSPA講習会に向けて、講習会のスケジュール確認、関係者の役割確認や、MSPA標準化についての話し合いを行った。

- ・平成28年度第一回事例検討会

日時：平成28年10月2日(日)16時～19時

場所：京都国際社会福祉センター本館二階

内容：講習会にて幅広い事例に対応できるようにするため、大学生事例の推敲を行った。

・平成28年度第二回関係者全体会議

日時：平成29年1月7日(土) 17時～21時半

場所：吉田南総合館南棟二階216

内容：これまでの講習会についての振り返り（反省点や課題の整理）および、今後の講習会に向けての話し合いを行った。また、講習会受講希望者の待機人数が多いことから（会議時点で600名超）一度の講習会でより多くの人数に対応できるようにするため、講習会の構成の見直しを行った。

・平成28年度第二回事例検討会

日時：平成29年1月15日(日)10時～12時

場所：平安女学院大学高槻キャンパス3号館保育科資料室

内容：講習会にて幅広い事例に対応できるようにするため、成人中期事例の推敲を行った。

### 【MSPA講習会】

MSPAの評価は、発達障害についての専門的知識を有する専門職者が、MSPAの考え方や評価基準について理解し、十分な評価練習を積んだ上で行う必要がある。このため、MSPAの概念を理解し、評価の練習をするための講習会を、京都国際社会副審センターの協力のもと、開催している。本年度は、以下のような形で講習会を行った。

・平成28年度第一回MSPA講習会

対象人数：50名

日時：平成28年7月30日(土)・31日(日)

場所：京都国際社会福祉センター

・平成28年度第二回MSPA講習会

対象人数：50名

日時：平成28年10月9日(日)・10日(祝)

場所：京都国際社会福祉センター

・平成28年度第三回MSPA講習会

対象人数：100名

日時：平成29年2月25日(土)・26日(日)

場所：一日目：キャンパスプラザ京都、二日目：京都国際社会福祉センター

### 【調査】

日時：平成28年8月9日

場所：京都府内および和歌山県内の幼稚園および小学校（個人情報特定につながるため

記載を省略する)において定型発達の幼児・小学生を対象としたMSPA評定を行うため、その保護者を対象とした質問紙調査および面接調査を行った。また幼稚園および小学校の教諭にも質問紙調査を実施した。

### 3. 実装成果の発表・発信状況、アウトリーチ活動等

#### 3 - 1. 展示会への出展等

#### 3 - 2. 研修会、講習会、観察会、懇談会、シンポジウム等

年月日	名称	場所	概要	ステークホルダー	社会的インパクト
平成29年2月5日	大阪府臨床心理士会教育部会主催研修会 「幼児期の発達を考える——新版K式発達検査と集団活動場面を通して」	創元社本社	参加人数:130名 臨床心理士を対象に、新版K式発達検査をもとにして、子どもの発達の流れや集団遊びの内容の変化について研修を行った。	大阪府臨床心理士会教育部会 (清水)	臨床心理士が、新版K式発達検査および、それをもとにした幼児期の発達に対する理解を深めたことで、検査の臨床現場での実施の促進が期待される。
平成28年11月25日	第29回日本総合病院精神医学会 学術総会 シンポジウム「総合病院精神科における発達障害児(者)の診療—年代別の特徴と対応のポイント—」	日本教育会館	参加人数:200名 医療従事者を対象に、精神科における発達障害の診療および対応を年代別に示した後、フロアを交えて議論を行った。	日本総合病院精神医学会 (船曳)	医療従事者が、発達障害児(者)を診療するにあたり、年齢に応じた診療ができるようになるとともに、支援の質を向上させることに貢献することが期待される。
平成28年11月20日	日本LD学会第25回大会 自主シンポジウム 「信頼関係の構築からはじめるアセスメントと支援 ～子どもの考えを尊重した関係作りを目指して～」	パシフィコ横浜	参加人数:30名 子どもの考えを尊重しながら、信頼関係を構築することに重点を置いた評価と支援のあり方について話題提供し、フロアを交えて議論を行った。	日本LD学会 (小川・清水・鈴木) 注:話題提供者については、3-7(2) 口頭発表にも記載	教職員等に、アセスメントと支援にあたっての信頼関係の重要性の再認識を促したことにより、特別支援教育の更なる充実が期待される。

平成 28年 11月 20日	日本LD学会第 25回大会 自主 シンポジウム 「発達障害児者 の支援における MSPA（発達障 害の特性別評価 法）の活用 ～各ライフステ ージにおける支 援事例を通して ～」	パシフィコ 横浜	参加人数:約50名 発達障害児者のライフ ステージに応じた支援の 必要性および、その際 のMSPAの活用に関し て、事例を通じて報告し た後、フロアを交えた議 論を行った。	日本LD学会 （清水・峰山・ 鈴木・小川） 注：話題提供者 については、3 －7（2）口頭 発表にも記載	教職員等が発達段 階に応じた支援の必 要性および、MSPA の活用法を知ったこ とにより、特別支援教 育の推進が期待され る。
平成 28年 11月 6日	日本臨床発達心 理士会 九州・ 沖縄支部研修会 「新版K式発達 検査の活用（応 用編）」	大博多ビル	参加人数:50名 臨床発達心理士を対象 に、新版K式発達検査 の結果の見立て方、評 価法、保護者への説 明、療育や保育におけ る実際の活用法につい て研修を行った。	日本臨床発達 心理士会 （清水）	臨床発達心理士が 新版K式発達検査の 実施・活用法を知っ たことにより、臨床現 場での活用の促進が 期待される。
平成 28年 10月 8日	支える人の学び の場 医療専門 職のためのここ ろ塾2016 「発達障害の理 解と支援：先端 の知と実践をつ なぐ 実践報告」	京都大学稲 盛財団記念 館	参加人数:100名 医療および教育専門職 者を対象に、発達障害 に関する理解を促すこ とを目的とした事例報 告を行った。	京都大学 こころの 未来研究 センター （小川・田村）	医療および教育専門 職者が、発達障害に 関して事例を通して その特性や支援に関 する知識を深めたこ とで、発達障害の正 しい理解の促進が期 待される。
平成 28年 9月 4日	日本心理臨床学 会 第34回大会 自主シンポジウ ム「これからの 発達障害アセス メント～ MSPA・K式・ CBCLを現場で どう使いこなす か～」	パシフィコ 横浜	参加人数:約150名 MSPA・K式・CBCLの 現場での活用方法を中 心に、発達障害のアセ スメントのあり方につ いて報告した後、フロ アを交えた議論を行 った。	日本心理臨床学 会 （清水・馬見 塚・山中・若林） 注：話題提供者 については、3 －7（2）口頭 発表にも記載	研究者および実践者 がMSPA・K式・ CBCLの実施・活用 法を知ったことによ り、研究および臨床 現場での活用の促進 が期待される。
平成 28年 8月 28日	日本発達障害学 会 第51回大会 自主シンポジウ ム「発達アセス	京都教育大 学	参加人数:約80名 新版K式発達検査改訂 版を作成と関連させな がら、発達アセスメントへの	日本発達障害学 会 （大谷・清水） 注：話題提供者	研究者および実践者 が新版K式発達検査 の実施・活用法を知 ったことにより、研究

	メントへのニーズと課題～新版K式発達検査改訂版の作成をめぐって～		ニーズと課題について報告した後、フロアを交えた議論を行った。	については、3-7(2) 口頭発表にも記載	および臨床現場での活用の促進が期待される。
平成28年8月25日	長岡第十小学校校内研修会「通常学級に在籍する支援を要する児童への指導のあり方」	長岡第十小学校図書室	参加人数:30名 教職員を対象に、発達障害などの理由から、特別な配慮を要する児童に対する指導・支援のあり方について研修を行った。	長岡京市(清水)	教職員が発達障害などの理由から、特別な配慮を要する児童の理解を深めたことで、通常学級においても、目の行き届いた支援の普及が期待される。
平成28年6月17日	特別支援教育<推進>「合理的配慮を踏まえた指導・支援」講座(コーディネーター養成Ⅱ) MSPAを活用したアセスメントと支援	京都府総合教育センター	参加人数:150名 京都府内の教職員を対象に、MSPAを用いた事例をもとに、質問の仕方や評価法について演習形式で説明を行った。	京都府総合教育センター(青山・清水)	教職員がMSPAを用いたアセスメントとそれを活用した支援の実際を知ったことにより、特別支援教育の推進が期待される。
平成28年4月30日	日本発達心理学会第27回大会ラウンドテーブル「ライフステージを通じた支援を考える～MSPA(発達障害用の要支援度評価スケール)の概念を用いて～」	北海道大学	参加人数:約30名 MSPAの概念および活用方法を説明しながら、発達障害者に対するライフステージを通じた支援のあり方について提案した後、フロアを交え、議論を行った。	日本発達心理学会(小川・清水・馬見塚・鳶田) 注:話題提供者については、3-7(2) 口頭発表にも記載	研究者および実践者に向けてMSPAの概念や活用方法を発信したことにより、研究におけるMSPAの活用をさらに普及させていくとともに、現場における発達段階に合わせた支援の充実が期待される。
平成28年3月28日	西京保健センター母子保健学習会「育てづらさを感じている親への早期支援について」	西京保健センター	参加人数:20名 保健師および京都市発達相談所職員を対象に、発達障害をはじめとした育てづらさを感じさせる子どもを持つ保護者への支援について研修を行った。	京都市(清水)	発達障害を有するなどの要因によって、養育の難しさを感じさせやすい子どもの保護者に対する支援の充実が期待される。

### 3-3. 書籍、DVD

1. 船曳康子. 5. 臨床心理士の役割 9. 教師・スクールカウンセラーとの連携. 総合病院精神科医向けの子どもの心の診療に関するマニュアル. 日本総合病院精神医学会児童青年期委員会編. 星和書店. 2016: 37-45, 59-67.
2. 清水里美. 第2章 発達のアセスメント 第3章 主な発達検査の紹介 1) 新版K式発達検査 2001. 尾崎康子・三宅篤子(編) 知っておきたい発達障害のアセスメント. ミネルヴァ書房: 2016, 26-33.

### 3-4. ウェブサイトによる情報公開

船曳研究室、<https://sites.google.com/site/fnabikilaboratory/Home/updates>

### 3-5. 学会以外のシンポジウム等への招聘講演実施等

1. 船曳康子. MSPA (Multi-dimensional Scale for PDD and ADHD) の臨床における活用. ADHD Clinical Care Seminar. 熊本. 2017年3月18日.
2. 船曳康子. AD/HD の診断と治療－発達障害の特性別適応評価用チャート MSPA (Multi-dimensional Scale for PDD and ADHD) を活用して－. 第9回筑後地区発達障害治療研究会. 福岡県久留米市. 2017年3月14日.
3. 船曳康子. MSPA による特性理解と活用について. 京都府精神保健福祉総合センター主催講演会. 京都府精神保健福祉総合センター. 2017年1月20日.
4. 船曳康子. 発達障害の特性別評価法 (MSPA) の理解と活用. 子ども・青少年育成支援協会. 特別講座. 大手町ファーストスクエアカンファレンス. 2016年11月26日.
5. 船曳康子. AD/HD の診断と治療－発達障害の特性別適応評価用チャート MSPA (Multi-dimensional Scale for PDD and ADHD) を活用して－. 烏丸沿線フォーラム. ロイヤルパークホテル京都. 2016年11月19日.
6. 船曳康子. うちの子少し違うかも...～発達障害に対する適切療育・支援のための研究開発～. サイエンスアゴラ 2016 キーノートセッション. 日本科学未来館. 2016年11月5日.
7. 船曳康子. AD/HD の診断と治療－発達障害の特性別適応評価用チャート MSPA (Multi-dimensional Scale for PDD and ADHD) を活用して－. ADHD Conference. 東京ドームホテル. 2016年11月5日.
8. 船曳康子. AD/HD の診断と治療－発達障害の特性別適応評価用チャート MSPA (Multi-dimensional Scale for PDD and ADHD) を活用して－. CON WEB セミナー. 京都大学吉田キャンパス. 2016年11月1日.
9. 船曳康子. AD/HD の診断と治療－発達障害の特性別適応評価用チャート MSPA (Multi-dimensional Scale for PDD and ADHD) を活用して－. ADHD 学術講演会 in 岡山. 岡山プラザホテル. 2016年10月29日.
10. 船曳康子. AD/HD の診断と治療－発達障害の特性別適応評価用チャート MSPA (Multi-dimensional Scale for PDD and ADHD) を活用して－. 第57回 日本児童青年精神医学会ランチョンセミナー. 岡山コンベンションセンター. 2016年10月29日.

11. 船曳康子. AD/HD の診断と治療－発達障害の特性別適応評価用チャート MSPA (Multi-dimensional Scale for PDD and ADHD) を活用して－. 石川県 ADHD 治療講演会. 白鳥路ホテル. 2016 年 10 月 6 日.
12. 船曳康子. 発達障害の特性別評価法 (MSPA) の理解と活用. 子ども・青少年育成支援協会. 特別講座. グランフロント大阪. 2016 年 8 月 27 日.
13. 船曳康子. AD/HD の診断と治療－発達障害の特性別適応評価用チャート MSPA (Multi-dimensional Scale for PDD and ADHD) を活用して－. コンサータ Web セミナー. TKP ガーデンシティ京都. 2016 年 7 月 13 日.
14. 船曳康子. AD/HD の診断と治療－発達障害の特性別適応評価用チャート MSPA (Multi-dimensional Scale for PDD and ADHD) を活用して－. AD/HD Clinical Meeting 2016 Spring. 京都ブライhtonホテル. 2016 年 5 月 14 日.
15. 船曳康子. AD/HD の診断と治療－発達障害の特性別適応評価用チャート MSPA (Multi-dimensional Scale for PDD and ADHD) を活用して－. コンサータ WEB セミナー. 丸井クリニック. 2016 年 3 月 23 日.

### 3-6. 論文発表

(国内誌 7 件、国際誌 2 件)

1. 船曳康子. MSPA (Multi-dimensional Scale for PDD and ADHD) 「発達障害用の要支援度評価スケール」. 児童青年精神医学とその近接領域. 2016 (印刷中).
2. 船曳康子、村井俊哉. ASEBA 行動チェックリスト (TRF: 6-18 歳用) 標準値作成の試み. 児童青年精神医学とその近接領域 (印刷中).
3. 船曳康子、村井俊哉. CBCL の標準値作成の試み. 児童青年精神医学とその近接領域 (印刷中).
4. 清水里美・馬見塚珠生・矢本洋子. 子育て支援プロジェクトにおける父親グループの特徴と活動内容との関連. 平安女学院大学研究年報第 17 号 (印刷中).
5. 大谷多加志, 清水里美・郷間英世・大久保純一郎・清水寛之. 発達評価における絵並べ課題の有用性. 発達心理学研究 (印刷中).
6. Rescorla LA, Achenbach TM, Ivanova M, Turner LV, Árnadóttir H, Au A, Calda, JC., Chen Y, Decoster J, Fontaine J, Funabiki Y, Guðmundsson HS, Leung P, Liu J, Maras JS, Marković J, Oh KJ, da Rocha MM, Samaniego VC, Silveares E, Simulioniene R, Sokoli E, Vazquez N, Zasepa E. Collateral Reports and Cross-Informant Agreement about Adult Psychopathology in 14 Societies. *Journal of Psychopathology and Behavioral Assessment*. 2016;38(3):381-397.
7. Rescorla LA, Achenbach TM, Ivanova MY, Turner LV, Althoff RR, Árnadóttir HA, Au A, Bellina M, Caldas JC, Chen Y, Csemy L, da Rocha MM, Decoster J, Fontaine J, Funabiki Y, Guðmundsson H, Harder VS, Leung P, Ndeti DM, Maras JS, Marković J, Oh KJ, Samaniego VC, Sebre S, Silveares E, Simulioniene R, Sokoli E, Vazquez N, Zasepa E. Problems and Adaptive Functioning Reported by Adults in 17 Societies. *Int. Perspectives in Psychology*. 2016;5(2):91-109.
8. 船曳康子. 不適応行動をアセスメントする-ASEBA 行動チェックリスト. 臨床心理学. 2016; 16(1):61-4.

9. 大谷多加志・清水里美・郷間英世・大久保純一郎・清水寛之. 乳幼児健診における新版 K 式発達検査の項目適切性—ふり遊びを中心に—. 人間文化.2016:38:1-12.

### 3-7. 口頭発表 (国際学会発表及び主要な国内学会発表)

#### (1) 招待講演 (国内会議 4 件、国際会議 0 件)

1. 船曳康子 (京都大学大学院人間・環境学研究科). 医療の現場で使用されているアセスメントについて学ぶ. 日本臨床心理士会. 全国定例研修会. 大阪科学技術センター. 2017年2月18日.
2. 船曳康子 (京都大学大学院人間・環境学研究科). 発達障害の特性別評価表 (MSPA) について知ろう. 関西学生発達障害支援フォーラム. 特別講演. キャンパスプラザ京都. 2017年1月27日.
3. 船曳康子 (京都大学大学院人間・環境学研究科). 精神科診療における発達障害の特性別の評価方法. 第29回日本総合病院精神医学会学術総会. 教育講演. 日本教育会館. 2016年11月25日.
4. 船曳康子 (京都大学大学院人間・環境学研究科). 発達障害用の要支援度評価スケール (MSPA) による発達評価と支援. 第57回日本児童青年精神医学会総会. 共催セミナー. 岡山コンベンションセンター. 2016年10月29日.

#### (2) 口頭発表 (国内会議 14 件、国際会議 0 件)

1. 清水里美 (平安女学院短期大学部 保育科). 自己理解から始めた大学生への支援 (自主シンポジウム「発達障害児者の支援におけるMSPA (発達障害の特性別評価法) の活用—各ライフステージにおける支援事例—」内での話題提供). 日本LD学会第25回大会. パシフィコ横浜. 2016年11月20日.
2. 鈴木英太 (京都府向日市立寺戸中学校). 中学校現場におけるMSPA活用の事例. (自主シンポジウム「発達障害児者の支援におけるMSPA (発達障害の特性別評価法) の活用—各ライフステージにおける支援事例—」内での話題提供). 日本LD学会第25回大会. パシフィコ横浜. 2016年11月20日.
3. 小川詩乃 (京都大学大学院 人間・環境学研究科). 保護者と共に把握する子どもの多面的な発達障害特性 (自主シンポジウム「発達障害児者の支援におけるMSPA (発達障害の特性別評価法) の活用—各ライフステージにおける支援事例—」内での話題提供). 日本LD学会第25回大会. パシフィコ横浜. 2016年11月20日.
4. 小川詩乃 (京都大学大学院 人間・環境学研究科). 子どもとの関係作りにおける多面的な特性把握の必要性 (自主シンポジウム「信頼関係の構築からはじめるアセスメントと支援—子どもの考えを尊重した関係作りを目指して—」内での話題提供). 日本LD学会第25回大会. パシフィコ横浜. 2016年11月20日.
5. 上月遥<sup>1</sup>、志波泰子<sup>2</sup>、小川詩乃<sup>2</sup>、川岸久也<sup>3</sup>、村井俊哉<sup>3</sup>、船曳康子<sup>2</sup> (1 京都大学大学院 精神科、人間・環境学研究科、<sup>2</sup> 京都大学大学院 人間・環境学研究科、<sup>3</sup> 京都大学 医学部) 136. 発達障害外来における睡眠研究—ASEBA と MSPA の比較検討—. 第57回児童青年精神医学会総会. 岡山コンベンションセンター. 2016年10月27日.
6. 馬見塚珠生 (親と子のこころのエンパワメント研究所). 「子育て支援における活用」. (自主シンポジウム「これからの発達障害アセスメント—MSPA・K式・CBCL

- を現場でどう使いこなすかー」内での話題提供)。日本心理臨床学会第34回大会。パシフィコ横浜。2016年9月4日。
7. 山中陽子(向日市教育委員会・京都府総合教育センター)。「学校現場における活用」。(自主シンポジウム「これからの発達障害アセスメントーMSPA・K式・CBCLを現場でどう使いこなすかー」内での話題提供)。日本心理臨床学会第34回大会。パシフィコ横浜。2016年9月4日。
  8. 若林彩(城陽市立ふたば園)。「早期支援における活用」。(自主シンポジウム「これからの発達障害アセスメントーMSPA・K式・CBCLを現場でどう使いこなすかー」内での話題提供)。日本心理臨床学会第34回大会。パシフィコ横浜。2016年9月4日。
  9. 清水里美(平安女学院短期大学部 保育科)。既存の項目の通過基準の検討(自主シンポジウム「発達アセスメントへのニーズと課題ー新版K式発達検査改訂版の作成をめぐるー」内での話題提供)。日本発達障害学会第51回大会。京都教育大学。2016年8月28日。
  10. 清水里美(平安女学院短期大学部 保育科)・馬見塚珠生(親と子のこころのエンパワメント研究所)。発達障害特性理解を促す保育者向け研修内容の検討ー発達障害用要支援度評価スケール(MSPA)の視点を取り入れた効果ー。日本保育学会第69回大会。東京学芸大学小金井キャンパス。2016年5月7日。
  11. 清水里美(平安女学院短期大学部 保育科)。保育・教育現場でのコンサルテーションにおけるMSPA活用のメリット(ラウンドテーブル「ライフステージにおける支援を考えるーMSPA(発達障害用の要支援度評価スケール)の概念を用いてー」内での話題提供)。日本発達心理学会第27回大会。北海道大学。2016年4月30日。
  12. 馬見塚珠生(親と子のこころのエンパワメント研究所)。子育て支援を通じた子どもの見立て・保護者の見立て(ラウンドテーブル「ライフステージにおける支援を考えるーMSPA(発達障害用の要支援度評価スケール)の概念を用いてー」内での話題提供)。日本発達心理学会第27回大会。北海道大学。2016年4月30日。
  13. 小川詩乃(京都大学大学院 人間・環境学研究科)。学習のつまずきの背景を探るー多面的な特性把握の必要性ー(ラウンドテーブル「ライフステージにおける支援を考えるーMSPA(発達障害用の要支援度評価スケール)の概念を用いてー」内での話題提供)。日本発達心理学会第27回大会。北海道大学。2016年4月30日。
  14. 畠田裕子(京都大学医学部附属病院 精神科神経科)。特性把握を活かした就労支援ーアセスメントから就労定着までー(ラウンドテーブル「ライフステージにおける支援を考えるーMSPA(発達障害用の要支援度評価スケール)の概念を用いてー」内での話題提供)。日本発達心理学会第27回大会。北海道大学。2016年4月30日。

(3) ポスター発表(国内会議 7 件、国際会議 1 件)

1. 小川詩乃(京都大学大学院 人間・環境学研究科)。ハイリスク児の乳児期からの発達追跡調査ー発達障害の早期支援をめざしてー。心の先端研究ユニット年次総会&研究交流会。稲盛財団記念館。2017年2月12日。
2. 上月遥(京都大学大学院 精神科、人間・環境学研究科)。MSPAによる神経発達

症の特性分布の検討－発達外来受診患者において－. 心の先端研究ユニット年次総会&研究交流会. 稲盛財団記念館. 2017年2月12日.

3. 田村綾奈 (京都大学 こころの未来研究センター、人間・環境学研究科). 発達障害の要支援度評価尺度 (MSPA) を用いた学習に困難のある児童生徒の特性分類の試み. 心の先端研究ユニット年次総会&研究交流会. 稲盛財団記念館. 2017年2月12日.
4. 上月遥<sup>1</sup>、志波泰子<sup>2</sup>、小川詩乃<sup>2</sup>、川岸久也<sup>3</sup>、船曳康子<sup>2</sup> (1京都大学大学院 精神科、人間・環境学研究科、2京都大学大学院 人間・環境学研究科、3京都大学 医学部). MSPAによる神経発達症の特性分布の検討－発達外来受診患者において－. 発達神経科学学会第5回大会 東京大学本郷キャンパス武田先端知ビル. 2016年11月26日.
5. 小川詩乃<sup>1</sup>、志波泰子<sup>1</sup>、上月遥<sup>2</sup>、松島佳苗<sup>3</sup>、福田はるな<sup>4</sup>、田村綾菜<sup>5</sup>、嶋田容子<sup>6</sup>、船曳康子<sup>1</sup> (1京都大学大学院 人間・環境学研究科、2京都大学大学院 精神科、人間・環境学研究科、3京都大学 医学部、4京都大学 総合人間学部、5京都大学 こころの未来研究センター、6同志社大学 赤ちゃん学研究センター). ハイリスク児の乳児期からの発達追跡調査－発達障害の早期支援をめざして－. 発達神経科学学会第5回大会 東京大学本郷キャンパス武田先端知ビル. 2016年11月26日.
6. 大谷多加志 (京都国際社会福祉センター)、清水里美 (平安女学院短期大学部 保育科)、清水寛之 (神戸学院大学 人文学部). 新版K式発達検査「名詞列挙」の下位項目の適切性. 日本発達障害学会第51回大会. 京都教育大学. 2016年8月27日.
7. 槇奈央<sup>1</sup>、佐藤鮎美<sup>1</sup>、曾智<sup>2</sup>、小川詩乃<sup>1</sup>、中西祐斗<sup>1</sup>、島谷康司<sup>2</sup>、船曳和雄<sup>3</sup>、辻敏夫<sup>2</sup>、船曳康子<sup>1</sup> (1京都大学大学院 人間・環境学研究科、2広島大学、3神戸先端医療振興財団). ASD者の姿勢制御の認知メカニズム. 日本発達心理学会第27回大会. 北海道大学. 2016年5月1日.
8. Ogawa S<sup>1</sup>, Yoshikawa S<sup>2</sup>, Funabiki Y<sup>1</sup> (1Graduate School of Human and Environmental Studies, Kyoto University, 2Kokoro Research Center, Kyoto University). Individualized learning support program for children with developmental disorders using MSPA (Multi-Dimensional Scale for PDD and ADHD). International Association for Child and Adolescent Psychiatry and Allied Professions World Congress. Calgary TELUS Convention Centre. September 21, 2016.

### 3-8. 新聞報道・投稿、受賞等

#### (1) 新聞報道・投稿 (1件)

・京大広報

[http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/research/events\\_news/department/ningen\\_kankyounews/2016/160413\\_1.html](http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/research/events_news/department/ningen_kankyounews/2016/160413_1.html) (2016年4月16日)

#### (2) TV放映

#### (3) 雑誌掲載

(4) 受賞

**3-9. 知財出願**

**3-10. その他特記事項**

当該開発物が、2016年4月に保険収載